

第2520地区

 2014~2015
**ひろがれ
 まわれ
 一つ心に**

MORIOKA
 ROTARY CLUB WEEKLY

第35回例会(3月27日)
 平成27年4月3日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市英園1丁目10
 川徳デパート内
 例会場 同上 TEL(651)1111(代)
 例会日 毎週金曜日12時30分~

会長 長澤 茂
 幹事 植山 桂
 会報 古山 明彦
 クラブ事務局 TEL(653)5682
 FAX(653)5622

Light Up Rotary. 'ロータリーに輝きを'.....ゲイリー C. K. ホアン



ゲスト卓話

「萬鉄五郎『裸体美人』から
 「コスモス」の所持者宮沢賢治へ」

萬鉄五郎記念美術館 館長
 中村 光紀様



萬鉄五郎「裸体美人」

1912年、萬鉄五郎は東京美術学校を卒業。卒業制作として『裸体美人』（重要文化財）を発表した。萬の個性がいきなり開花した、日本における「革命的」絵画作品となった。ゴッホやマチスの影響を受けた激しい画面は物議をかも学校側の評価は低かった。当時の美術学校の先生方（黒田清輝、久米桂郎ら）は、この作品の価値が理解できなかった。萬はそのとき、すでに美校の先生方を超えていた。卒業後に岸田劉生、高村光太郎らと「フェウザン会」を結成、斬新な作品を発表し、文展アカデミズムと訣別した。萬の「己の心に忠実に」（『鉄人獨語』）と描いた自我を解放した作品は、萬芸術の出発点で、近代美術の新しい幕開けを告げるもので、日本における前衛美術の先駆者と言われる所以である。

それはセザンヌと同じで、セザンヌは自分の絵画制作を「感覚の実現」と言っている。「実現」であって「再現」でも「描写」でもない。「写生」するだけではない、ことを意味する。

ひとつには「写真」の発明がある。写真が発明され、絵画が現実をそっくり写すという使命を負わなくなった。「絵画とは何か？」という問いとともに、絵画の純粹さが追求されることになったのである。

「絵とは、絵空事である」と言われる。

絵描きが事実を離れることによって、実在以上の美を創造することである。

一方、萬と同じ27歳の石川啄木は新詩壇の天才と将来を囑望されたが、1912年4月13日、東京小石川久堅町で亡くなった。啄木は1886年2月20日生まれ、萬は前年の11月17日に生まれているので、萬が3ヶ月年長であった。同じ27歳の二人、萬は自分の芸術を開花させる出発の年になったが、早熟な啄木は人生の終焉を迎えた。

そしてこの年、近代美術の魅力を高めた画家松本竣介（旧姓佐藤）、彫刻家舟越保武が誕生した。松本は盛岡出身の佐藤勝身の次男として

◆スピーカー紹介◆

萬鉄五郎記念美術館館長・岩手大学教育学部非常勤講師（芸術文化課程）
 1940年生まれ。盛岡市出身、中央大学法学部卒業。1965年岩手日報社入社。事業部長、三陸博報宣伝部長（出向）を経て事業局次長（2000年定年退職）。2002年岩手大学教育学部非常勤講師（現任）、もりおか啄木・賢治青春館館長。2011年萬鉄五郎記念美術館館長（現任）。ほか、盛岡市観光交流センター館長、盛岡大学非常勤講師など歴任。岩手県民会館の開館から2000年までの27年間、岩手日報社主催の大型美術展をすべて企画、開催。「ロダン展」「プリヂストン美術展」「東山魁夷展」「ミレー展」など50展。

（阿部 広会員）

東京に生まれたが、2歳で父のりんご酒醸造の事業に参加するため花巻に移り、小学校3年まで過ごした。そのころ、父のもとに盛岡高等農林学校を卒業した宮沢賢治が訪れ交流があったという。その後、父が盛岡貯蓄銀行の創立に参加のため、一家は盛岡に移り盛岡中学に入学した。同期に舟越保武がいた。竣介は画家になってから発行した月刊誌『雑記帳』（1936年）の創刊号巻頭に宮沢賢治の遺稿をのせ、賢治への敬愛の深さを示している。

宮沢賢治は、この年が16歳で盛岡中学の4年生であった。3年生のとき最初の短歌を作り、啄木流の「わかち書き」を試みている（『歌稿B』）。10年先輩の啄木の『一握の砂』（1910年12月）を読み、その刺激を受けて短歌を制作して文学への一歩を踏み出した。

「1912年」は明治45年、7月30日から大正元年になるが、単に元号が変わっただけではなく、岩手の「芸術文化」にとって特筆される年であった。

内にコスモスを持つ者は
 世界の何処の辺遠に居ても
 常に一地方的な存在から脱する。
 内にコスモスを持たない者は
 どんな文化の中心に居ても
 常に一地方的な存在として存在する。
 岩手県花巻の詩人宮沢賢治は
 まれに見るこのコスモスの所持者であった。

昭和8年（1933）に宮沢賢治が亡くなった直後、高村光太郎が書いた追悼文の抜粋である。37歳で亡くなった賢治は、一般的には無名であったが、生前から光太郎は賢治の内なる「芸術」の「宇宙」を高く評価していたのである。

光太郎が、この追悼文の前段で引き合いに出した芸術家がセザンヌであった。文化の中心パリから遠く離れた片田舎のエクスにひきこもって、一人で絵に熱中し、格別に新しいことを成しとげるといような心構えもなく、自分の絵を追求してただけである。その片田舎での一老人の仕事が、後の世界の新しい芸術に重大な指針を与えることになるのである。それは彼が内に芸術の一宇宙を深く蔵していたからであると書いている。

今日、宮沢賢治の評価が、日本はもとより海外まで広がりを見せており、最も人気のある作家になっている事から見て、光太郎の物事の本質を見抜くその鋭い眼力に敬服した。

賢治は、印象派に影響を与えた浮世絵の収集に熱中したり、また竹針でレコードを聴いていた時代に、ベートーヴェンなどのクラシックレコードを大量に買い求めてレコードコンサートを開いていた。当時のレコード会社が岩手の片田舎から多量の注文が来るので、いったい誰だ

ろうと注目されたという。

地球的に言えば、東京もニューヨーク、パリそして盛岡もすべて地球の片隅である。知的好奇心を持って、どう内なる「コスモス」を持つことができるかは、しょせん個人の問題だろう。どの地点においても個の力を磨くことができる。

コスモスは、ギリシャ語で、秩序と調和を持つ宇宙である。ちなみに反対語は混沌を意味するカオスである。

高村光太郎は、昭和20年4月東京大空襲でアトリエを焼失、5月に宮沢家の招きで宮沢清六宅（賢治の生家）に疎開したが、8月の花巻空襲で被災、10月太田村山口へ移って7年間独居生活を送った。高村光太郎は萬鉄五郎の2歳年長で、「フェウザン会」（1912年）結成時に二人は交流があった。そのころ、高村は雑誌『スバル』に論文「緑色の太陽」を発表、芸術の自由を宣言した。高村も萬も、個性の主張にふさわしい新しい芸術を求めていたのである。

例会報告

第35回例会 平成27年3月27日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 長澤 茂会長
- ・ソング それでこそロータリー
- ・ゲスト 中村光紀様（萬鉄五郎記念美術館 館長）
- ・会長報告 長澤 茂会長
- ・入会祝 金子眞也君。
- ・誕生日 金子眞也・金沢滋君。
- ・結婚祝 金子眞也・金沢滋・工藤博司君。
- ・幹事報告 樋山 桂幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡南R.C.= 3月31日(火)は、通常夜例会18:30~「盛岡居酒屋 遊食屋 FUJI」会場変更
- 盛岡西R.C.= 4月16日(木)は、復興支援活動「内陸と沿岸のふれあい会」のため12日(日)「グリーンピア三陸」。
- 盛岡東R.C.= 4月6日(月)は、家族親睦例会のため5日(日)「陸前高田かき小屋」。

- 盛岡滝ノ沢R.C.= 4月9日(木)は、地区大会リハーサルのため8日(水)。4月16日(木)は、地区大会主催のため19日(日)。

【ニコニコBOX】

- ◆佐藤重昭君…長澤会長様、樋山幹事様、本日も出席出来ず誠に申し訳ございません。本日、江口博朗会員様の退会にあたり、江口会員の新しい赴任地でのますますのご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。大変お世話になりました。
- ◆斎藤和好君（米山奨学生・カウンセラー）…我がクラブの米山奨学生スリーボン・カムチョンブーさんの岩手大初の芸術工学博士号授与式が3月23日に県民会館で挙行されました。私も係として、夫婦で参加し、感激を味あわせていただきました。スリーボンさんは、我がクラブの好意により羽織袴の立派でかわいい正装姿にて、船崎科長から博士学位記の授与、ついで主任指導教員の田中教授から立派なメダルをかけていただきました。沢山の報道陣に囲まれた写真入りの記事が翌24日の岩手日報に

掲載されました。午後にはヒヤマフォトスタジオにて我々も彼女と共に記念写真を撮影してもらいました。スリーボンさんは3月末には、母国タイに帰り、大学講師として、タイ国と日本国の懸け橋となり頑張るとしております。スリーボンさんの将来に幸多かれと祈りつつ…!

- ◆江口博朗君…この度、長野県の駒ヶ根支店への転勤となりました。お世話になりました皆様にはご挨拶できず大変残念ですが、最後に充実した盛岡ライフを過ごせたことにニコニコします。
- ◆長澤 茂君…昨日から花粉症の新しい良い治療薬を使用しております。非常に効果があるのでニコニコしたいと思います。
- ◆金沢 滋君…3.11が結婚記念日・3.12が誕生日。たくさんのフェイスブック等でのお祝いの言葉をいただき、ニコニコです。

●メークアップ

盛岡北R.C.=吉田(幸)・金子・川村(登)君。盛岡滝ノ沢R.C.=佐藤(仁)君。クラブ委員会=藤田・星・金沢・菊池・中山・大見山・坂本・佐藤(重)君。

出席報告 会員数 /72 名 出席数 /41 名 出席率 /59.42% 前々回修正出席率 /80.88%

プログラムの
お知らせ

- ・4月 3日(金) 新入会員卓話 堺田幸志会員
- 「金融機関が求める経営改善計画とフォローアップ」 ●本号編集担当 / 竹中 陽一
- 10日(金) ゲスト卓話 金田玲子様 (style-R 代表) ●次号編集担当 / 海野 尚